

<<ひとを“嫌う”ということ>>

图书基本信息

书名：<<ひとを“嫌う”ということ>>

13位ISBN编号：9784043496020

10位ISBN编号：4043496028

出版时间：2003

出版时间：角川書店

作者：中島義道

版权说明：本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介，请支持正版图书。

更多资源请访问：<http://www.tushu007.com>

## <<ひとを“嫌う”ということ>>

### 内容概要

誰かを嫌いになること、誰かから嫌われることは、つらく、不快で、いけないことだと考えがちである。

著者はそんな「常識」に疑問を投げかけ、日常的に人を嫌いになるということは、好きになることと同様にごく自然であり、「嫌い」としっかりと向き合うことが人生を豊かにしてくれると説く。

著者は、東大人文学部大学院、ウィーン大学哲学科を修了した哲学博士であり、ドイツ哲学、時間論、自我論が専攻の電気通信大学教授である。

本書の土台となっているのは、著者自身が「これまでの長い人生において、むやみやたらに他人を嫌うことがあり」、妻と息子からは「ある日を境に激しく嫌われるハメに陥った」という切実な現実である。

本書では、「嫌い」を引き起こす原因として、相手が自分の期待にこたえてくれないこと、嫉妬、軽蔑、無関心、生理的な拒絶など、8つを挙げて解説している。

著者自身も書きながら「私が嫌っている膨大な人々の顔が眼の前にブンブン蠅のように登場し、その迫りに押しつぶされそう」だったと「あとがき」で述べているが、読む方も、自分が今までに嫌ってきた人、嫌われてしまった体験などを次々と思い出し、その原因に改めて納得したり、せっかく忘れていたのに今さらまた思い出してしまったことへの不快感にさいなまれるかもしれない。

しかし、「嫌い、嫌われる」という苦しい関係は、一面では「自分を反省させてくれ、警告を与えてくれ、まことに有益」と指摘されると、確かにそうだと溜飲が下がる。

自分が誰をも嫌わず、誰からも嫌われずには生きてはいないという事実、少なからず罪悪感を抱いている人は、一読してみてもうどうだろう。

(加藤亜沙) --このテキストは、絶版本またはこのタイトルには設定されていない版型に関連付けられています。

出版社/著者からの内容紹介

ひとから嫌われたくない私。

すべてのひとを好きになれない私。

あなたに嫌いな人がいて、またあなたを嫌っている人がいることは自然なこと。

こういう夥しい「嫌い」を受け止めさらに味付けとして、豊かな人生を送るための処方箋を明らかにした画期的な1冊。

## <<ひとを“嫌う”ということ>>

### 作者简介

東大人文学大学院、ウィーン大学哲学科を修了した哲学博士であり、ドイツ哲学、時間論、自我論が専攻の電気通信大学教授である。

<<ひとを“嫌う”ということ>>

版权说明

本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介，请支持正版图书。

更多资源请访问:<http://www.tushu007.com>